



平成 29 年関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会

かながわ箱根大会

大会テーマ : 「 ^{つなぐ} 継 」

実施要項

I. 大会概要

- 大会日程：平成29年6月22日（木）～24日（土）
- 大会会場：神奈川県箱根町「湯本富士屋ホテル」（神奈川県足柄下郡箱根町湯本 256-1）
- 交通：箱根登山鉄道（小田急電鉄）「箱根湯本」駅下車 徒歩3分

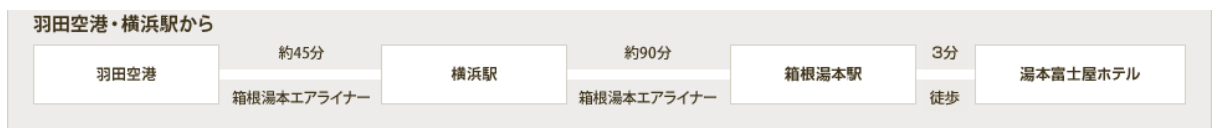
<鉄道によるアクセス>



<お車でのアクセス>



<高速バスによるアクセス>



■大会コンセプト

伝統を、技術を、建築士同士が、建築士と消費者が、「継」という言葉には、様々な物語と、時間、関係式、想いがあります。特に神奈川という地域は日本の転換点、節目をいつも見つめてきました。

貴族政権から武家政権へと移行した鎌倉、安政の開国により貿易が始まった横浜。近代日本への幕開けとなる黒船4艘がやってきた横須賀・浦賀、そしてダグラス・マッカーサーが降り立った大和・厚木基地と、転換・節目に立ち会い、その事実を受け止め、先進的な取り組みをもって変化を重ね、神奈川は発展してまいりました。

いつの時代も、志を持った人たちが自らの仕事を通じ、地域の特色を活かしながら発展を繰り返し、地域が、国が、形づくられて今があります。本大会では、青年建築士が、未来に向かって突き進むために、先人達の意思を「継」、私たちが何をつくり「継」ゆくのかを考えてゆく必要があるでしょう。

本大会を開催する神奈川県箱根町。「箱根」は東海道五十三次の宿場町として、また、箱根温泉は奈良時代に開湯したとされる歴史の深い街です。ここを舞台として、1977年、神奈川県鎌倉市（鎌倉パークホテル）で関プロ青年協が発足してから40年という節目に、過去から未来へと連綿と続く「今」を背景に、これからの「継」を考える。そんな大会をめざします。

■大会構成

大会は6月23日の本大会を中心に、関連行事も併せ3日間により構成します。

日 程	時間	内 容	会 場
2017年 6月22日(木)	15:00 ~ 18:00	平成28年度第4回関プロ青年協理事会	白銀
	18:30 ~ 20:00	関プロ青年協・ウェルカムパーティー	梅
6月23日(金)	10:00 ~ 11:30	関プロ女性協理事会	白銀
	10:30 ~ 20:00	参加者クローク	1 F 特設スペース
	10:30 ~ 20:00	学生展示コーナー	2 F ロビー付近
	10:30 ~ 11:30	第一分科会発表練習、審査方法説明会	箱根東中
	10:30 ~ 20:00	企業協賛ブース	2 F ロビー付近
	11:00 ~ 20:00	事業報告パネル展示	2 F ロビー付近
	11:00 ~ 12:00	関プロ会長会議	明神
	11:00 ~ 18:30	受付	1 F ロビー
	11:30 ~	開場	
	12:00 ~ 12:45	全体会議 I	箱根東中
	12:50 ~ 14:30	第一分科会 I	箱根東中
	休憩 15分		
	14:45 ~ 16:30	第一分科会 II	赤富士
	14:45 ~ 16:30	第二分科会	箱根東中
	14:45 ~ 16:30	第三分科会	双子
	休憩 15分		
	16:45 ~ 17:30	全体会議 II	箱根東中
	17:30 ~ 19:00	懇親会会場設営 宿泊者チェックイン	企業協賛ブースをお楽しみください。
	19:00 ~ 21:00	大懇親会	箱根東中
21:15 ~ 23:00	二次会(青年交流会)	赤富士	
21:15 ~ 23:00	都県別交流会	ご希望の県ごとにお知らせいたします。	
6月24日(土)	7:30 ~ 9:00	平成29年度第1回関プロ青年協理事会	白銀
	8:30 ~	エクスカーション	湯本富士屋ホテル 駐車場より出発

■参加費用など

6月22日(木)	6月23日(金)	6月24日(土)
関プロ青年協 ウェルカムパーティー 10,000円/人	大会登録料: 4,000円/人 懇親会費: 8,000円/人 都県別交流会 or 二次会(青年交流会) : 3,500円/人	エクスカーション A,Bコース: 6,000円/人 Cコース: 6,500円/人
会場(湯本富士屋ホテル)に宿泊希望の方: 1泊 11,000円/人(朝食付) ※都県別ごとの相部屋になる予定です。 ※ホテルにはシングルルームがございません。悪しからずご了承願います。		

■各分科会など（各分科会の詳細は、分科会ごとの開催要項をご覧ください）

	内容	概要						
6月 23日（金）	全員参加 第一分科会 I	第一分科会テーマ 地域実践活動発表会・過去から未来へつなぐ「今」 …1都9県の各単会における青年建築士の活動報告を行います。活動報告は審査を行い、全国大会（京都大会・12/8～9）の代表選考を行います。						
	申し込み時に選択していただきます。	第一分科会 II	…第一分科会 I で発表された青年建築士の活動報告について、そのひとつひとつを深く掘り下げ、各単位士会に持ち帰ることのできるヒントとなるよう、ディスカッションいたします。					
		第二分科会 (開催県企画)	第二分科会テーマ 「2050年まで、住み継ぐ住まい」 ～ 続・今、この地に建つ住まいとは～ …1987年に開催の関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会では、この神奈川の地に青年建築士が集い、2020年へ向けてメッセージを残す形で「住宅」について討論をしました。30年後にあたる2017年現在、空家問題を筆頭に、30年前とは異なる問題もあり、課題は山積みです。 そこで、本大会では、事前に、実際に手を動かし、各地域（各都県、各市町村等）の現状、将来推移を調べ、「30年後も、この地に建つ住まいとは?!」をテーマに自分たちの未来予想図を提案していただくこととしました。 1都9県各々が抱える問題を提起し、対策を提案していきます。もちろん提案は各都県、各地域ともに一つとは限りません。多様な条件により、提案は、いくつも生まれるかもしれません。 この提案に関して、横浜で育ち、今も横浜に事務所を設け、世界中でご活躍されている建築家山本理顕さんに事前課題のご提案・提案書のご講評をお願いいたしました。 青年協議会ブロック大会の原点に帰り、大会当日は、提案に対し、グループディスカッションを行い、その内容を持ち帰り、実務に反映していくという、「 持ち寄り、持ち帰ること 」を実践します。青年建築士として議論をしさらに30年後の人々に向けてメッセージを残しましょう。					
		第三分科会 (関ブロ青年協企画)	第三分科会テーマ 「今、動き出そう！まちの未来と青年建築士を継ぐ」 …2025年、いわゆる団塊世代の方々すべてが後期高齢者となり、これに向け、医療・介護施設に入居できない大勢の高齢者が発生しています。国や行政では住み慣れた地域で医療、介護、予防、住まい、生活支援が包括的に確保される「地域包括ケアシステム」を取り組み始めており、私たち青年建築士は対応するための知識を得て、これからの糧としたいと思います。					
学生作品展 (開催県企画)	神奈川県内の大学、専門学校、工業高校の学生の作品展示、また、連合会主催の建築甲子園の作品展示を行います。							
6月 24日（土）	希望者参加企画 エクスカーション (開催県企画)	…本大会を開催する神奈川県箱根町は東海道五十三次の宿場町として、また、箱根温泉は奈良時代に開湯したとされる深い歴史をもち、箱根町やその周辺には私たちが受け継ぐべき文化が根付いています。本大会では、この受け継がれてきた文化を歩いて体感し、これからの時代を担う青年建築士が、この先、何を継いでいくべきかを考える、そんなヒントとなる3コースをご用意いたしました。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">Aコース</td> <td>箱根の歴史を支えてきた『富士屋ホテル、菊華荘、宮ノ下』</td> </tr> <tr> <td>Bコース</td> <td>自然（火山）の中で3000年の歴史を考える『元箱根・大涌谷・強羅』</td> </tr> <tr> <td>Cコース</td> <td>箱根の伝統工芸「寄木細工」体験と、入鉄砲出女施策を支えた「小田原城」</td> </tr> </table> 大会会場を中心として、箱根の歴史と文化を魅了いただければと思います！	Aコース	箱根の歴史を支えてきた『富士屋ホテル、菊華荘、宮ノ下』	Bコース	自然（火山）の中で3000年の歴史を考える『元箱根・大涌谷・強羅』	Cコース	箱根の伝統工芸「寄木細工」体験と、入鉄砲出女施策を支えた「小田原城」
Aコース	箱根の歴史を支えてきた『富士屋ホテル、菊華荘、宮ノ下』							
Bコース	自然（火山）の中で3000年の歴史を考える『元箱根・大涌谷・強羅』							
Cコース	箱根の伝統工芸「寄木細工」体験と、入鉄砲出女施策を支えた「小田原城」							



平成 29 年関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会

かながわ箱根大会

大会テーマ : 「^{つなぐ}継」

第一分科会「過去から未来へつなぐ“今”」 実施要項

1. 開催趣旨

私たち青年建築士は、建築士として日常業務と共に、各自が様々な活動を行っている。

これらは、社会貢献につながるものであり、結果として、自己研鑽となる。私たちの今ある知識や技術、文化や自然はどれも先人から受け継ぎ、積み重ねたうえに成り立っている。そしてそれら受け継いできたものは、途切れさせずに後世へつなげていかなければならない。つまり、私たちが行っている活動は、一過性ではなく継続性があり、初めて次の世代の、未知の世界への挑戦につながる事に成りえるはずである。

第一分科会では、各都県の地域実践活動を公にし、その内容を読み取り、同世代の青年建築士の視点で審査し、称え、表彰することで、活動実践者の更なる活動意欲の向上をはかり、またその報告を聴いた青年建築士が、自らの建築士活動に対する意欲を掻き立てられるきっかけとなり、各都県の青年建築士が関わる地域実践活動が活発となることを目的としている。

2. 募集内容

テーマ「過去から未来へつなぐ“今”」

地域の歴史、特性を読み取り、建築士としてどのように魅力を引出し、後世へ残していくか。

継続性と未来への発展性のある活動として、今何が出来るのか。

今後の活動の展開をどのようにしていくかを明確にされているものとする。

※ 応募数は各都県建築士会から1つずつ、計10件とする。

3. 提出物

1) 種別

- ①発表する実践活動の提案、経緯、実践方法、結果報告の要旨を記載した発言要旨
- ②発表に使用する投影用データ
- ③第一分科会発表者・テーブルコーディネーター名簿

2) 提出期限

- ①発表する実践活動の提案、経緯、実践方法、結果報告の要旨を記載した発言要旨

平成 29 年 5 月 8 日 (月) 17:00 必着 電子メールにて

- ②発表に使用する投影用データ

平成 29 年 6 月 19 日 (月) 17:00 必着 電子メール又は郵送、持参にて必着

※提出後に変更が生じた場合は速やかに大会運営側に申し出ること。

- ③第一分科会発表者・テーブルコーディネーター名簿

平成 29 年 5 月 8 日 (月) 参加者名簿と共に電子メールにて

7. 第一分科会Ⅱ

1) 開催趣旨

第一分科会Ⅱは第一分科会Ⅰで発表した各都県の発表をベースに、参加者の所属する単位建築士会に持ち帰る、或いは、その活動をさらにブラッシュアップして今後の活動の参考にして頂く事を目的に開催いたします。

2) 第一分科会Ⅱの進行について

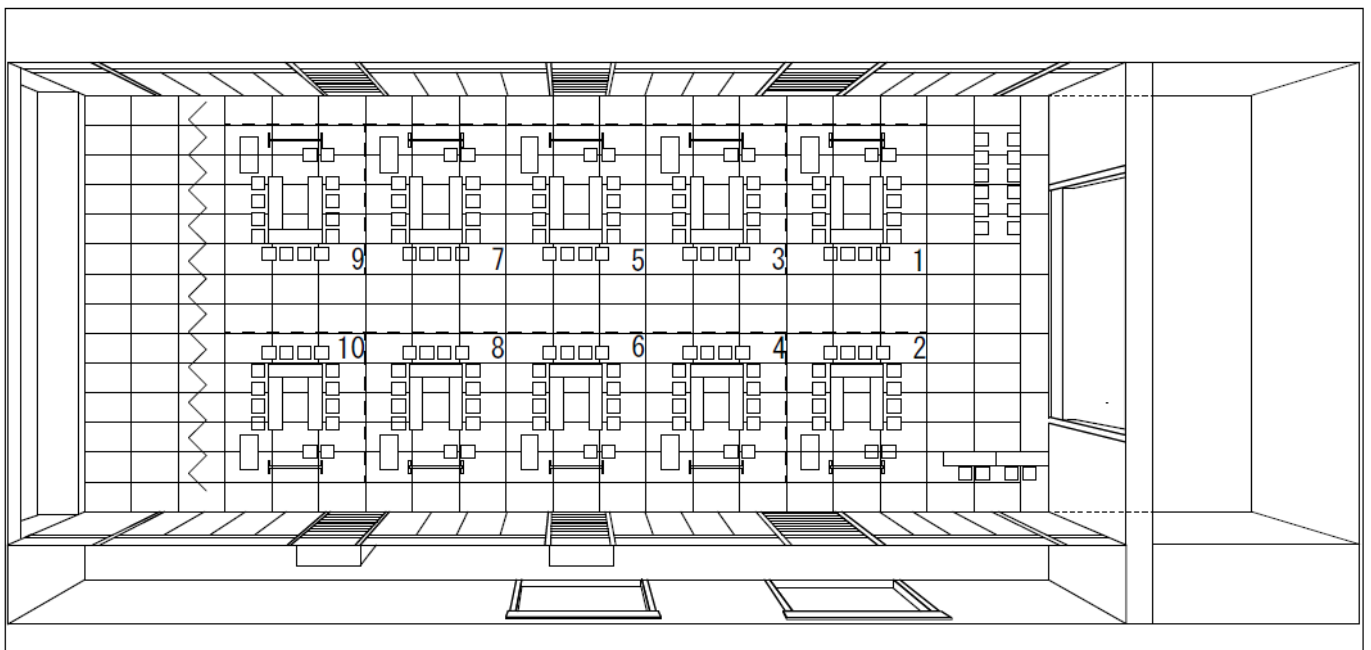
Start	End	Lap	
14:45		0	開会
		5	第一分科会Ⅱの説明
		10	全体アピールタイム
		5	移動
		5	テーブルディスカッション
		35	テーブルディスカッション①
		5	移動
		35	テーブルディスカッション②
	16:30	5	総評・閉会

※進行内容は変更になる場合がございます。

3) テーブルディスカッションについて

テーブルディスカッションは自由討論形式で、飲み物などの持ち込みは可とし、各都県の地元サポーターを配置する事は可能です。なお、テーブルディスカッションについては各都県のテーブルコーディネーターの選出と、テーブルディスカッション①においては、各都県から1名ずつ、他の都県へ1名以上の配置をお願い致します。

テーブルディスカッション②については移動自由とさせていただきます。





平成 29 年関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会

かながわ箱根大会

大会テーマ : 「^{つなぐ}継」

第二分科会 「2050 年まで、住み継ぐ住まい」 ～今、この地に建つ住まいとは～ 実施要項

1. 趣旨

1987 年に開催の関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会では、この神奈川の地に青年建築士が集い、2020 年へ向けてメッセージを残す形で「住宅」について討論をしました。30 年後にあたる 2017 年現在、空家問題を筆頭に、30 年前とは異なる問題もあり、課題は山積みです。

そこで、本大会では、事前に、実際に手を動かし、各地域（各都県、各市町村等）の現状、将来推移を調べ、「30 年後も、この地に建つ住まいとは？！」をテーマに自分たちの未来予想図を提案していただくこととしました。

1 都 9 県各々が抱える問題を提起し、対策を提案していきます。もちろん提案は各都県、各地域ともに一つとは限りません。多様な条件により、提案は、いくつも生まれるかもしれません。

この提案に関して、横浜で育ち、今も横浜に事務所を設け、世界中でご活躍されている建築家山本理顕さんに事前課題のご提案・提案書のご講評をお願いいたしました。

青年協議会ブロック大会の原点に帰り、大会当日は、提案に対し、グループディスカッションを行い、その内容を持ち帰り、実務に反映していくという、「持ち寄り、持ち帰ること」を実践します。

青年建築士として議論をしさらに 30 年後の人々に向けてメッセージを残しましょう。

2. 募集作品

1) 提案者は、建築士会の会員とします。

各都県から最低 1 名（任意で数名も可）の選出をお願い致します。（提案・研究はグループでの取組み可）

2) 応募作品は、事前課題への回答書と「30 年後の人々のための住まい」提案書とします。

3. 募集方法、スケジュール

1) 募集登録期間

2017 年 5 月 8 日（月）

第二分科会の参加方式は、以下に分かれます。希望される参加方式を記入して下さい。

①発表者＝提案の代表者

②ディスカッションへ直接参加するディベーター

③ディスカッションを聴講するオーディエンス

2) 募集作品の提出期限

2017 年 4 月 28 日（金）17:00 必着にて Email または郵送にて下記へお送り下さい。

E-mail : hakone@kanagawa-kentikusikai.com

送付先：一般社団法人神奈川県建築士会 事務局（担当：須藤）

〒231-0011 神奈川県横浜市中区太田町 2-22 神奈川県建設会館 5 階／TEL:045-201-1284

※送付容量が 2.0MB を超える場合は、データファイル転送サービスをご使用下さい。

転送サービスを使用時は必ずパスワード設定を行い、パスワードをメールにてご連絡下さい。

3) 提出資料

- 事前課題の回答書（A4サイズとし、表現方法は自由にて作成したものの PDF データ）
 - 「30年後の人々のための住まい」提案書
 - プレゼンボード（A1 横使いにて作成したものの PDF データ）
 - 提案士会名、提案製作者氏名は必ずご記載下さい
 - コンセプト（A4サイズ1枚程度で作成したものの PDF データ）
 - 提案内容及び他都県へ特に主張したい点をプレゼンボードとは別に作成して下さい
 - その他、表現方法として必要なもの（上記以外に提出する場合）
 - 表現方法として、模型を提出される場合は、W600×D900×H600までの大きさとして下さい。
 - 模型は、大会当日の提出としても構いません。
- ※プレゼンボードは大会当日に展示いたしますので大きさ等はお守り下さい。
- データを期日までに送付いただければ、実行委員会にてパネルへ出力いたします。
- 色彩等にこだわるなど製作者側でパネルを作成される場合はスチレンボード（7mm）でパネル製作し大会当日11：00までに実行委員（第二分科会担当者）までにお預け下さい。
- ※表現方法として模型等を持ち込まれる場合は同時に展示したく思います。
- 設営の都合がありますので4月28日の提出時にあらかじめ、模型の有無をお知らせ下さい。
- ※大会当日に補足資料の持込みはできませんが、提案テーマが大きく異なるものはお控え下さい。

4) 事前課題

以下について、各都県で調べ状況を共有しましょう。これらは、今後この地に建つ住まいを考える上でのヒントとなる可能性もあります。関東甲信越の全体像が見える資料となりますので、これら7項目に対する回答を事前課題とし、必ずご回答をお願いします。

1. 自分たちのエリア（地域）の人口比率

- ・現在から30年後の人口推移がわかる統計、想定

2. 職業分布（第一次産業、第二次産業など）

- ・白地図にプロット等で一覧できる資料

3. 平均収入（世代別）

- ・各地域でどのような水準なのかがわかる資料

4. 住まいへの社会保障について

- ・各都県の今後の展望を含めた社会保障についての資料
- ・住まいとは戸建や集合住宅、老朽化した平屋の賃貸などさまざまな形態がある
30年後まで残らないすまいもある中で、その人々はどのような保障を受けていくのでしょうか？

5. 築後何年の住まいに住んでいるか

- ・建物サイクルを考えると今後の需要や収容状態がみえるかもしれません

6. 増える（減る）人口を収容するシステム

- ・現在減少傾向である場合は増加期のシステム

7. 自由意見

- ・テーマに取り組む際上記の項目以外の内容についても視野に入れていく必要があると思います
取組んだ内容について自由意見でお示しください。

※各都県の住まいの現状は様々だと思います。「30年後の人々のための住まい」の提案において、少なくとも取り入れる内容かと思いますが、必ずこだわらなくてはならないというものではありません。
テーマを大切に考えていただければと思います。

5. 当日のスケジュール

Start	End	Lap	
14:45		0	開会
		5	挨拶・分科会説明
		30	事前資料に基づき各都県より各地域問題点発表シート説明 各県代表者による2分程度の提案紹介
		15	講評 (DVD)
		35	テーマ別テーブルに分かれて各都県によるディスカッション (※) キーワードをいくつか出していただき集計していただきます
		15	テーマ別テーブルの発表
	16:30	5	まとめ・挨拶

※進行内容は変更になる場合がございます。

※複数のディスカッションテーブルを予定しています。代表者の他にもテーマに関わる方の参加をお願いします。

※ディスカッションテーブルには可能な限り青年建築士が中心となって発言をお願いします。

(サポートとしてテーブルに提案者グループメンバーが、複数人付かれることは制限しません)

※ディスカッションへ直接参加しない方は、オーディエンスとして各テーブルの話を聞いていただき各都県が、考える課題や将来像を持ち帰り同じ関東甲信越ブロックの実情の理解をしましょう。

6. 講評方法

1) 講評者

建築家 山本理顕

プロフィール 1945 中国北京市生まれ

1968 日本大学理工学部建築学科卒業

1971 東京芸術大学大学院美術研究科建築専攻修了
東京大学生産技術研究所原研究室生

1973 株式会社山本理顕設計工場設立

2002 工学院大学 教授 (–2007年)

2007 横浜国立大学大学院 教授 (–2011年)

代表作品 熊本県営保田窪第一団地

公立はこだて未来大学

東雲キャナルコート CODAN

ザ サークル チューリッヒ空港



Photo-Jake Walters

2) 講評日程

4月28日締切の「30年後の人々のための住まい」提案書の提出後に行います。

講評内容は、各提出者へ5月下旬頃お伝えします。その際、追加資料をお願いするかもしれません。

※本大会は、「持ち寄り、持ち帰ること」を目的としますので、提案書の優劣は選定いたしません。

7. 提出パネル・模型等の取扱い

提出パネル・模型等は、6月23日の第二分科会終了後、ご自身でお持ち帰り下さい。

お持ち帰りされない場合は、実行委員会にて撤収させていただきます。

8. 著作権

提出パネル・模型等の著作権は提案者に帰属するものとし、実行委員会は編集著作権を持ちます。また、複写権は実行委員会に委託するものとします。



平成 29 年関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会

かながわ箱根大会

大会テーマ : 「^{つなぐ} 継 」

第三分科会「今、動き出そう！まちの未来と青年建築士を継ぐ」 実施要項

1. 開催趣旨

2025 年、あなたは何歳になりますか。

両親や家族、あなたを取り巻く環境は大きく変わっています。

2025 年、団塊の世代全ての人々が後期高齢者となり、まちには医療・介護施設に入所出来ない大勢の高齢者が見受けられることが予想され、国では「地域包括ケアシステム」がスタートしています。一方、住居や生活支援等のハード面で、連携が必要である、私たち青年建築士のすべてが対応できているのでしょうか？

「地域包括ケアシステム」は、2025 年を目途に、医療や介護が必要な状態になっても、できるだけ住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保されるシステムのことを言います。

かながわ箱根大会から 2025 年まで 8 年。「地域包括ケアシステムにおける福祉まちづくり」について、関東甲信越ブロック 10 都県で青年建築士が自ら研鑽をし、責任を持って計画・施工が出来るよう、取り組み始めるきっかけをつくります。それぞれの地域で、建築士が安心できるハードを提供することが高齢者の安全につながり、また青年建築士がそのような場面で力を発揮することが、地域の活性を生み出し、新たな社会基盤づくりの一端を担うことにつながるのではないかと考えます。

2. 開催内容

- 1) 地域包括ケアシステムと福祉に携わるこれからの建築士の役目
- 2) 事例紹介：群馬県高崎市での取り組み
- 3) 2025 年に向けて、青年建築士が取り組むべきこと
- 4) パネルディスカッション
- 5) 質疑応答

3. 講師

- 1) 竹中 美智子 氏：株式会社 DEN 代表取締役（愛知建築士会）
- 2) 城田 幸子 氏：有限会社 城田建築設計事務所（群馬建築士会副会長）
- 3) 増田 敬之 氏：有限会社 バウハウス 代表取締役（千葉県建築士会） 専門分野：福祉施設

4. その他登壇者

- 1) 山中 保教 氏：日本建築士会連合会副会長



関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会

平成 29 年関東甲信越建築士会ブロック会青年建築士協議会

かながわ箱根大会

大会テーマ : 「 ^{つなぐ} 継 」

エクスカージョン「受け継がれる歴史・自然と建築を肌で感じる」 実施要項

1. 開催趣旨

本大会を開催する神奈川県箱根町は東海道五十三次の宿場町として、また、箱根温泉は奈良時代に開湯したとされる深い歴史をもち、箱根町やその周辺には私たちが受け継ぐべき文化が根付いています。本大会では、この受け継がれてきた文化を歩いて体感し、これからの時代を担う青年建築士が、この先、何を継いでいくべきかを考える、そんなヒントとなる3コースをご用意いたしました。

2. 開催内容

箱根の歴史を支えてきた『富士屋ホテル、菊華荘、宮ノ下』	
A コ ー ス	
	<p>1398年(応永5年)開湯した古い歴史を持つ「宮ノ下温泉」。その中心に位置する富士屋ホテルは明治11年創業したクラシックリゾートホテルです。</p> <p>時代とともに受け継がれる思いを、自然や風情を味わいながら、宮ノ下の道を歩き、歴史的背景を感じられる建物の味わいと重厚感、趣のある客室を見学ののち、箱根の歴史と建造物のミニ講義を受けた後、明治天皇の内親王富美宮内親王の避暑地の為に建築された「菊華荘」で懐石料理を楽しみながら、私たちが何を継ぐかを考えるコースです。</p>
	<p>6,000円/人</p> <p>※菊花荘での食事の際、ソフトドリンク、アルコール類は個人精算とさせていただきます。</p> <p>※お荷物は会場の湯本富士屋ホテル、または箱根キャリーサービス(別途個人支払)をご利用ください。</p>
	<p>(集合) 湯本富士屋ホテル … 箱根湯本駅(箱根登山鉄道) + 宮ノ下駅 … 宮ノ下散策(1) … 08:30 … 08:40~09:16 … 9:16~10:00</p> <p>(施設見学・講演) (庭園散策・昼食) (解散) … 宮ノ下・富士屋ホテル … 菊華荘 … 宮ノ下散策(2) … 宮ノ下駅 10:00~11:45 … 11:45~13:00 … 13:00~14:00 … 14:00</p> <p>+ 鉄道 … 徒歩</p> <p>(講演 10:40~11:30) 「(仮称)箱根の歴史と建造物」 箱根町立郷土資料館 鈴木館長</p>
募集数：40人(申し込み多数の場合は抽選)とさせていただきます。	

自然（火山）の中で 3000 年の歴史を考える『元箱根・大涌谷・強羅』



今から約 3000 年前の爆発によってできた神山火口の爆裂跡“大涌谷”は、荒涼とした大地に白煙が立ち込め、江戸時代までは“地獄谷”と呼ばれ、火山活動と共に歩んできました。箱根神社、元箱根など、箱根の歴史を歩きつつ、大涌谷の迫力をロープウェイ、ケーブルカーを乗り継ぎながら、火山活動と温泉のメカニズム、また、箱根の現状を神奈川県温泉地学研究所・研究員の解説とともに歩きます。

最後は強羅で現在大人気を博している“田むら銀かつ亭”でヘルシーな「豆腐かつ煮定食」を味わう、箱根を学び・感じ・味わえる盛りだくさんなコースです。

6,000 円/人

(出発) (見学会・講演会)
 湯本富士屋ホテル = 杉並木 = 箱根神社 = 環境省・箱根ビジターセンター …
 08:30 09:00~09:15 09:20~09:50 10:10~11:10

(自由見学)
 … 桃源台 ~ 大涌谷 … ジオミュージアム ~ 早雲山 + 強羅
 11:20 11:40 11:45~12:10 12:32 発(12:55 発)

(Aグループ)
 強羅 … 昼食 … 箱根強羅公園散策 … (解散)
 12:45~13:25 13:30~14:00 14:10

(Bグループ)
 強羅 … 箱根強羅公園散策 … 昼食 … (解散)
 12:50~13:20 13:30~14:05 14:10

= バス ~ロープウェイ +ケーブルカー …徒歩

環境省・箱根ビジターセンターでの詳細
 10:10~10:20 施設見学（火山活動と歩んできた自然環境を見てとれる施設です）
 10:20~11:10 講演：火山活動と温泉／箱根の現状について
 （講師：神奈川県温泉地学研究所 万年研究員）（講演 10:20~11:10）

※田むら銀かつ亭でのソフトドリンク、アルコール類は個人精算とさせていただきます。

※お荷物は会場の湯本富士屋ホテル、または箱根キャリーサービス（別途個人支払）をご利用ください。

※大涌谷は火山性ガスが噴出しており、気管支や肺に持病のある方は参加をご遠慮ください。

募集数：40人（申し込み多数の場合は抽選）とさせていただきます。

B
コ
ー
ス

箱根の伝統工芸「寄木細工」体験と、入鉄砲出女施策を支えた「小田原城」



長い歴史を持つ小田原城。現在の天守閣は、1960年に再建されました。再建から55年余り、平成の大改修を終えた天守閣を見学します。

また、箱根を代表する伝統工芸『寄木細工』。様々な種類の木材を組み合わせ、それぞれの色合いの違いを利用して模様を描く木工技術で、なぜ寄木細工が栄え、これからの寄木細工を考え、寄木細工が建築とどのように融合できるのか、若手寄木細工職人によるギャラリー案内と製作体験を通して寄木細工への理解を深めます。

お食事は「小田原早川漁港」にて新鮮な海の幸を満喫するコースです。

6,500円/人

※小田原漁港での食事の際、ソフトドリンク、アルコール類は個人精算とさせていただきます。

※お荷物はマイクロバスに積み込むことができます。湯本富士屋ホテルへ戻られる方はホテルにお預けください。

(出発) (寄木細工体験・レクチャー)
湯本富士屋ホテル = 小田原城散策 = 露木木工所ギャラリー =
09:00 09:30~10:30 10:45~11:45

(昼食) (希望者解散) (全体解散)
小田原早川漁港 = 小田原駅西口 = 湯本富士屋ホテル
12:00~13:30 13:50 14:20

= マイクロバス

露木木工所（寄木細工ギャラリー）での詳細
10:45~11:00 ギャラリー見学、レクチャー（講師：露木木工所）
11:00~11:40 寄木細工製作体験

募集数：20人（申し込み多数の場合は抽選）とさせていただきます。

コース

エクスカッション参加のみなさまへ

エクスカッション参加中のお荷物については、会場ホテルで預けて、駅（構内）で受け取れることのできる箱根キャリアサービスをご利用ください。

行き 箱根湯本駅 → 宿
12:30まで受付/15:00以降 お荷物受け取り

帰り 宿 → 箱根湯本駅
10:00まで受付/13:00~19:00 お荷物受け取り



箱根フリーバスの提示で100円引!

料金（片道）

通常サイズ(3辺の合計が120cm、20kg以内のもの)	800円/1個
大型サイズ(3辺の合計が150cm、30kg以内のもの)	900円/1個
トランクサイズ(3辺の合計が200cm、30kg以内のもの)	1,100円/1個

《注意事項》箱根キャリアサービスカウンターでのお手続きに時間がかかる場合があります。お届けする施設は当社と提携した施設に限ります。縦・横・高さ、3辺の和が2mを超えるものおよび重量が30kgを超えるものはお預かりできません。貴重品、傘、ベビーカー、壊れやすいもの、危険物、動物、腐敗変質しやすいものおよび、その他取扱上支障のあるものはお預かりできません。

箱根登山バス

<http://www.hakone-tozanbus.co.jp/>

お問い合わせ

箱根キャリアサービス（箱根湯本駅内）

TEL.0460-86-4140 営業時間/8:30~19:00

会場の湯本富士屋ホテルで取り扱いがございました。